

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：機械、土木、建築、その他工学】

大 学 名	立命館大学	整理番号	H - 2
拠点のプログラム名称	文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点		
中核となる専攻等名	理工学研究科総合理工学専攻		
事業推進担当者	(リ-ダ-)村橋 正武 外18名		
<p>(拠点形成の概要)</p> <p>本研究拠点は、21世紀における工学の果たす役割の一つとして、代替性のない文化遺産に着目し、それを中核とする歴史都市を自然災害から保全し、継承するための学理と技術を確立しようとするものである。このため文化遺産が高密度に存在する京都及びその近郊を対象に選び、それらの地域における被災の歴史と復元、想定される自然外力に対する防災技術の確立及び被災予防に関する社会システムの構築を主要なテーマとして、工学、情報学及び人文・社会科学の研究者が強力に連携して研究を進める。具体的には実態論・現象論、技術論及び計画・政策論的方法に基づき、問題提起 - 解決案提示 - 実践システム構築の全過程をパッケージ化した学術体系を構築する。本拠点における教育研究活動を通して、文化遺産を中核とした歴史都市の保全・継承のための新しい学術体系を構築するとともに、防災技術及び計画・政策論を国内外に発信し、防災研究者・技術者を育成する。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>二つとない貴重な文化遺産を災害から守ることを目的とした新しい防災研究拠点を形成するところがユニークであり、かつ重要な着想である。新しい分野であることから、これまでの拠点の実績はないといえるが、研究担当者それぞれは防災、文化財の面で実績をもっていることが評価された。これまで、この分野でまとまって研究をする拠点はなかったといえるが、内外で個々の文化財、災害種類等についてはかなりの研究や防災実施の実績があることも踏まえ、災害研究者と文化財関係研究者が共同して研究推進することによって、新しい分野を開拓し、世界的にもユニークな研究拠点が形成されることを期待する。</p>			